

# 令和5年度事業報告

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

## 1. 概要

新型コロナウイルス感染症が5年以上続きましたがようやく終息され、インバウンド需要が回復に向かい徐々に日本経済に期待が出始めました。その反面、ロシアのウクライナ侵攻による原油価格の高騰は続き、さらに近年の円安傾向が物価に反映された影響は、高齢者の市民生活に影を落としています。そのような中、シルバー人材センターの役割は、入間市や地域の関係者への協力をしていくことと捉えており、高齢者の中核的な活動拠点として、多様な就業ニーズに対応し、地域社会の日常生活に密着した就業機会を確保・提供することを目指した一年でした。今年度は新規就業先として民間事業所や保育園などの確保が堅調に推移したことで、高齢者や地域社会に貢献できたことと実感できました。

また、本年度は年会費を減額したことにより、会員の入会促進や退会抑制、特に年度末は入会者数が増加し、前年比70名増員となったことは堅調な結果と判断しています。

事業実績や運営状況、委員会の取り組みは次の通りとなりましたのでご報告いたします。

### 事業実績（受託事業＋独自事業＋労働者派遣事業）

	令和4年度 (実績)	令和5年度		予算比	前年比
		予算	実績		
事業収入	685,792千円	740,000千円	722,711千円	97.7%	105.4%
会員数 (年度末)	1,434人	1,580人	1,504人	95.2%	104.9%
就業延人員 (月平均)	12,581人	15,300人	12,579人	82.3%	100.0%

## 2. 安全・適正就業の徹底

安全・適正就業委員会を中心に安全パトロールを強化した結果、傷害保険や損害賠償責任保険について、保険金の支払額は減額しました。傷害保険は、保険金を支払った会員は11名、通院135,000円、入院542,000円、手術給付金45,000円となり総額234,000円となりました。特に就業途上での転倒、屋外作業で手持道具でのケガが目立ちました。一方で、損害賠償責任保険は、賠償事故で刈払機の事故が課題となっていましたが、飛散防止ネットの配布、研修と安全パトロールを強化した結果、事故件数は0件でした。しかし、それに代わりスーパーのカートの接触事故が重なり、カートの損害賠償金額205,627円となり新たな課題が見えました。全体としては、保険金は350,077円となり例年に比べ事故件数が減少しました。また、熱中症対策としては、初夏6月に経口補水液パウダータイプを全会員へ配布し、熱中症を防ぐ活動に尽力いたしました。

## 3. 就業機会の拡大

今年度、経済の明るい兆しが見え始め、新規の受注と既存の増員に拍車がかかりました。特に、年度当初に開拓した保育園からの受注が増え女性会員の就業先の需要を伸ばしまし

た。さらに新型コロナウイルス感染症の収束が見え始め、請負事業と派遣事業を問わず就業機会の拡大を目指した結果、事業実績として前年比 5.4%上昇し、特に派遣事業が数字を大きく伸ばした結果、前年比 37,000 千円増額の 7 億円の大台を超えることとなりました。

#### 4. 会員の増強

令和 5 年度は新入会員の増強に注力した 1 年でもありました。まずは、会員募集委員会を中心に毎月限定した地域に 1,000 枚以上の入会チラシのポスティングに尽力しました。また、9 月下旬に入会チラシ秋冬版を市内全戸配布した結果、3 月までに 150 名以上が入会説明会に参加し多くの方が入会しました。特に 1 月から 3 月は例年入会者が減少する中、50 名近い入会者数となり就業先の人員不足を解消するとともに、市内の高齢者にシルバー人材センターを認識いただけた結果となりました。

#### 5. 研修・講習会の開催

安全・適正就業委員会を中心に①職群班役職者の委嘱状交付と研修会、②公共施設管理業務の消防署職員による普通救命講習会、③狭山警察署からは、公用車等使用会員向けに交通安全研修会、④公園管理など刈払機使用業務は、機械販売業者からの安全講習会を実施し、多発事故の再発防止に努めました。また、⑤センターにて業務毎の就業会員に 3 日間で「就業に関する研修会」を開催し多数の参加となり、関心を寄せていただいた研修会と合同ミーティングを開催することができました。

#### 6. 普及啓発の推進

今年度は 11 月に第 9 回元気な入間ウォーキング大会、3 月には第 15 回元気な入間文化祭で市民参加型のイベントが開催され普及啓発の入会促進に寄与しました。

また、新年に「会員満足度調査」を実施し、広報委員会の発行している広報紙「いるまシルバーだより」、事務局発行の「会員の皆さまへおしらせ版」は、多くの会員が愛読している結果となり、会員への情報発信力の強化を実感できた 1 年でした。

#### 7. 第 1 次中期基本計画の検証と第 2 次中期基本計画の策定

令和 5 年 11 月から毎月 1 回策定実行委員会を執行委員 9 名で 9 回開催しました。最初に第 1 次中期基本計画の会員数、事業実績、取組内容について検証いたしました。その結果、この 5 ヶ年間は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、会員数、事業実績は伸び悩み、事業の取組は実施できない期間が続きました。また、さらに定年制度の改正などにより入会者数の状況も以前とは異なる年齢層に変化してきたことなどが 5 ヶ年間状況でした。それを踏まえ第 2 次中期基本計画を策定した内容は、今迄の期待値を込めた積算から、これからの時代に合わせ会員の働き方や地域社会のニーズに寄せた内容を多く盛り込んだ目標数値と基本計画を策定いたしました。